２００９年９月２８日（月）高知新聞朝刊

盲導犬と歩行体験

高知市 視覚リハビリ研究発表大会

盲導犬と歩く視覚障害のある男性（高知市朝倉戊）

視覚障害者の生活訓練などに携わる専門家らが参加した「視覚障害リハビリテーション研究発表大会」が26、27日の2日間、高知市朝倉戊の県立ふくし交流プラザで開かれた。延べ約210人が、ワークショップや講演で視覚障害者を取り巻く現状に理解を深めた。

視覚障害リハビリテーション協会（吉野由美子会長）の主催。今回で18回目で、四国での開催は初めて。

会場には視覚障害者のための拡大読書器など最新機器が展示され、中には自動音声読み上げソフトを使い、パソコンでインターネットニュースを聞く人も。また、延べ約60人が盲導犬との体験歩行を行った。

スタッフの介助を受けて盲導犬と会場内外を歩いた香南市夜須町の林道夫さん（46）は「普段はつえを使っているが、どぶに落ちたり、開いたままの車のトランクにぶつかったりしたこともあった。盲導犬は事前にサインを送ってくれるので安心」。

閉会後には、目が見えず耳も聞こえない「全盲ろう者」として国内初の大学教授となった福島智・東京大学教授が特別講演。自身の体験を踏まえ、難しい状況を乗り越えるためには、点字など基礎的なコミュニケーション手段の確保▽周囲のサポート▽個人レベルではない、制度的・社会的な支えーが必要と訴えた。（真崎裕史）